

# TOUR DE HOKKAIDO 2007 NEWS

第6ステージ 2007年9月17日発行

## 個人区間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	メディ・ソウラビ	イラン	1:22:51
2	岡崎和也	NIPPO梅丹	+0:00
3	飯野嘉則	パールイズミ	+0:00
4	別府匠	愛三工業	+0:02
5	ミッチェル・ドッカー	オーストラリア	+0:05
6	鈴木真理	ミヤタ	+0:05

## 個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	ヘンリ・ヴェルネル	ドイツ	80
2	宮澤崇史	NIPPO梅丹	67
3	メディ・ソウラビ	イラン	65
4	ミッチェル・ドッカー	オーストラリア	63
5	飯島誠	プリヂストン・アンカー	55
6	新城幸也	NIPPO梅丹	53

## 団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	オーストラリア	51:38:56
2	NIPPO梅丹	+9:04
3	プリヂストン・アンカー	+16:34
4	ミヤタ	+17:56
5	シマノ	+34:57
6	イラン	+45:59

## 個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	ヘンリ・ヴェルネル	ドイツ	17:11:25
2	ダレン・ラプトーン	オーストラリア	+0:08
3	新城幸也	NIPPO梅丹	+0:17
4	飯島誠	プリヂストン・アンカー	+0:55
5	土井雪広	シマノ	+1:01
6	ホセン・アスカリ	イラン	+1:11

## 個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	土井雪広	シマノ	33
2	増田成幸	ミヤタ	27
3	スチュアート・ショウ	オーストラリア	15
4	別府匠	愛三工業	10
5	メディ・ソウラビ	イラン	10
6	ヘンリ・ヴェルネル	ドイツ	9

## テキストライブ配信中!

ツール・ド・北海道のレースの様子をテキストライブで配信中。携帯からも閲覧できます。



PC: <http://www.cyclingtime.com>  
携帯: <http://mobile.cyclingtime.com>



## 6th Stage 最終ステージはソウラビ (イラン) が圧勝。総合はヴェルネルが獲得

最終第6ステージは、2年ぶりに札幌市モエレ沼公園の特設コース、2.75kmを22周するクリテリウム。6周目以降、4周ごとごとに4回のホットスポットが設定されている。個人総合時間賞は1位ヘンリ・ヴェルネル (ドイツ) と2位ダレン・ラプトーン (オーストラリア) が7秒差。ポイント賞はヴェルネルと2位宮澤崇史 (NIPPO梅丹) の差はわずか9ポイント。宮澤が確実にポイントを加算していけば、十分に逆転可能な圏内にある。

6周目、最初のホットスポットは、スチュアート・ショウ (オーストラリア)、宮澤、ヴェルネルの順。ポイント賞争いでは、宮澤が2ポイント詰めた。

7周目で岡崎和也 (NIPPO梅丹)、別府匠 (愛三工業)、飯野嘉則 (パールイズミ) の3人の逃げが決まる。それにメディ・ソウラビ (イラン) が追いつき



個人総合優勝を決め、右手を挙げてゴールするグリーンジャージのヘンリ・ヴェルネル (ドイツ)

4人のエスケープグループになる。10周目のホットスポットは、ソウラビ、別府、飯野の順で通過。先頭の岡崎はローテーションには加わらない。メイン集団はリーダージャージを擁するドイツとオーストラリアがコントロール。逃げを容認したためタイム差はじわじわと開いていく。

14周目を終えた時点で、ステージ優勝を狙ってミヤタとマトリックスが集団を引き始め、タイム差が縮まる。

18周目、最後のホットスポットは、ソウラビ、別府、飯野の順で通過。先頭ソウラビが強力な引きを見せ、集団との差はあまり縮まらない。

残り2周。先頭から岡崎がアタックする。ローテーションに加わっていなかっただけに、決定的になるかと思われたが、ソウラビが岡崎を吸収。先頭は4人に戻る。

最終コーナーを曲がって先頭は4人のまま。スプリント勝負となり、ソウラビが圧倒的なスピードで、ステージ優勝を飾った。リーダージャージのヴェルネルは5秒遅れの10位でフィニッシュし、個人総合時間賞とポイント賞を守りきった。

## Next Year 海外勢の力に屈した日本チーム。来年はさらなるレベルアップが必要か?

ヘンリ・ヴェルネル (ドイツ) が個人総合優勝を果たし閉幕した、第21回ツール・ド・北海道国際大会。ヴェルネルは第1ステージで優勝し、その後リーダージャージを一度は手放したが、最難関といわれた第5ステージで見事な逆転劇を見せて、個人総合時間賞を獲得した。

日本勢では第2ステージを西谷泰治 (愛三工業)、第4ステージを新城幸也 (NIPPO梅丹)、さらに個人総合山岳賞を土井雪広 (シマノ) が獲得するなど、海外勢に劣らぬ見せ場をつくって大会を盛り上げた。

また、佐藤杯 (U23賞) を獲得した角令央奈 (鹿屋体育大学) は、第2ス

テージ5位、第4ステージ4位に食い込み、個人総合時間でも11位という将来性を感じさせる成績を残した。

国内最大級のステージレースは、厳しい山岳での登坂力、スプリント力、さらにチームの総合力などあらゆる面での実力が試される。この大会で経験を積み、さらに高いレベルで戦う力を育ててくれること期待したい。

なお、第21回大会の様子は、北海道文化放送とCSのJ SPORTSでテレビ放映が予定されている。北海道文化放送では10月8日 (月・祝) 9:55から30分間ダイジェストと10月14日 (日) 24:55からの2時間。J SPORTSでは

10月19日 (金) 23:00からJ SPORTS 1ほかで北海道文化放送の2時間枠の番組が放送される。



強力な引きで逃げを決め、ステージ優勝を飾ったメディ・ソウラビ (イラン)



# TOUR DE HOKKAIDO

<http://www.tour-de-hokkaido.or.jp>